



東日本大震災 町の保健師、被災地へ ～現地の状況や今後の課題を報告～

被災地・石巻市の状況



三月十一日に発生し、東北地方を中心に未曾有の被害をもたらした東日本大震災。
電気や水道などのライフラインは徐々に復旧されつつも、発生から三ヶ月が経過した現在でも、避難所生活や生活物資の不足、見通しの立たない生活への不安・ストレスなど被災地を取り巻く状況は依然として深刻です。
こうした中、奥出雲町の石田雅子保健師が、島根県からの要請を受け、五月十七日から二十一日までの間、被災地である宮城県石巻市で支援活動を行いました。

現地での活動：被災地住民の声

石田保健師が活動したのは、石巻市中心部から車で約一時間程離れた牡鹿半島の牡鹿支所管内。現地では、



被災地で訪問活動を行う石田保健師

島根県雲南保健所の吉井千栄子保健師とともに、家庭訪問による世帯状況や健康被害の把握を行いました。「現地では全員が被災者。皆さんが思いを吐き出すことを我慢している状況の中で、訪問し一人ひとりの声を聞くことは大切だと感じた」と話す石田保健師。一軒一軒一人ひとり、被災地住民の生の声を聴きながら、丁寧な訪問活動を行いました。

今後に向けて：見えてきた課題

今回の被災地での活動を通して石田保健師は「現地では定期的な避難訓練が実施されていて住民の方も避難場所を把握していた。奥出雲町でも、避難所の確認や防災意識の高揚のためにも訓練が必要。また、要支援者の再確認や搬送方法等の具体化など体制づくりの必要性を感じた」と報告しました。

被災地の早期復興のため、義援金の募金をお願いします

次の窓口で募金を行っています。
【島根県共同募金会奥出雲町支会】
 ・募金箱の設置場所 役場 仁多庁舎1階 町民課、横田庁舎1階 町民福祉係 各地区公民館、奥出雲町社会福祉協議会
 ・受付期間 平成23年9月30日まで
【日本赤十字社島根県支部】 金融機関での振り込み
 ・振込用紙の設置場所 役場 仁多庁舎1階 町民課、横田庁舎1階 町民福祉係 山陰合同銀行 三成支店・横田支店

多くのご支援ありがとうございます ～義援金募金額のご報告～

10,545,892円

(集計期間:3月14日～5月31日。社会福祉協議会取りまとめ分)

自然と地域と歩みをと

一味同心塾が開館十周年

料理研究家の中村成子さんが館長を務める、上阿井の「一味同心塾」が平成十三年の開館から十周年を迎えました。記念事業として、東日本大震災チャリティコンサート、女優の音無美紀子さんをスペシャルゲストに迎えた田植え交流会が行われました。
(主催・一味同心塾米づくり委員会)

この思いを被災地へ、チャリティコンサート開催

五月二十二日には、ピアニストの遠藤さつきさんとヴァイオリニストの中畝みのりさんを招き、「心をつなぐチャリティコンサート」が開催されました。

はじめに中村館長から「震災を通じ、奥出雲の地がいつまでも健やかにあってほしいと改めて感じ、コンサートをこの地で開催した。是非、この思いを被災地につなげたいです」とあいさつがありました。



コンサートの様子

この日は、「アヴェ・マリア」「ノクターン」「幻想即興曲」などクラシックの有名曲が披露されました。また最後には、約百人の来場者とともに唱歌「ふるさと」を合唱。被災地に届けとばかりに温かなメロディーを会場に響かせました。



自然の恵みに感謝の気持ちを

田植え交流会

六月四日には、同塾前の水田で、田植え交流会が行われました。この田植え交流会は、都市住民との交流や食の安全について考えようと、米づくり委員会(安部清代表)が、開館から毎年開催しています。この日は、中村館長の生徒で女優の音無美紀子さんのほか、町内や東京、広島、隠岐などから約百四十人が参加しました。

田の神「サンバイさん」に豊作を願う神事や、音無さんによる餅まきが行われた後、内容田植離子保存会のメンバー五十人による華やかな田植離子が披露されました。米づくり委員会の安部代表は「皆様の支えにより十周年を迎えた。今後も中村館長を中心に、昔ながらの米づくりに精進したい」とあいさつがあり、音無さんは「震災を通して自然と共生する重要性を感じた。今後は自然の恵みに感謝して生きていきたい」と話されました。

また、中村館長が「自然に背かず生きることが大切。この気持ちを『食と農』につなげ、地域とともに塾を育てていきたい」とあいさつされました。



田植えに挑戦する音無さん (写真左)

両日での募金や入場料(二十一万千八百八十円)は、日本赤十字社を通じて、東日本大震災への義援金として全額寄付されます。